



コール ピックアップ

- [コール ピックアップの概要 \(1 ページ\)](#)
- [コール ピックアップの設定タスク フロー \(3 ページ\)](#)
- [コール ピックアップの連携動作 \(23 ページ\)](#)
- [コール ピックアップの制限 \(24 ページ\)](#)

コール ピックアップの概要

コールピックアップ機能により、ユーザは自分以外の電話番号に着信したコールに応答できません。

グループコール ピックアップの概要

グループコールピックアップ機能を使用すると、ユーザは別のグループ内の着信コールをピックアップできます。Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにした場合は、ユーザが適切なコール ピックアップ グループ番号をダイヤルする必要があります。このタイプのコール ピックアップには [G ピック (GPickUp)] ソフトキーを使用します。ピックアップグループに複数のコールが着信しているときに電話のグループコールピックアップ機能をユーザが起動すると、最も長く鳴っていた着信コールに接続されます。電話のモデルに応じて、プログラム可能な機能ボタン [グループ ピックアップ (Group Pickup)] または [グループ ピックアップ (Group Pickup)] ソフトキーのいずれかを使用して、着信コールをピックアップします。自動グループコールピックアップが有効ではない場合、ユーザは [G ピックアップ (GPickUp)] ソフトキーを押し、別のピックアップグループのグループ番号をダイヤルし、コールに応答して接続する必要があります。

他のグループ ピックアップの概要

他のグループピックアップ機能により、自身のグループに関連付けられているグループ内の着信コールをピックアップできます。Unified Communications Manager は、ユーザが Cisco Unified IP Phone からこの機能をアクティブにすると、関連グループ内で着信コールが自動的に検索して、このコールを接続します。ユーザはこのタイプのコールピックアップに [他 Grp (OPickUp)] ソフトキーを使用します。自動他グループピックアップが有効な場合、コールを接続するには

[他 Grp (OPickUp)] および [応答 (Answer)] ソフトキーを押す必要があります。電話のモデルに応じて、プログラム可能な機能ボタン [コールピックアップ (Call Pickup)] または [コールピックアップ (Call Pickup)] ソフトキーのいずれかを使用して、着信コールをピックアップします。

複数の関連グループが存在する場合、1番目の関連グループが、コール応答の優先順位が最も高いグループになります。たとえば、グループ A、B、および C がグループ X に関連付けられている場合、コール応答の優先度はグループ A が最も高く、グループ C が最も低くなります。グループ X はグループ A の着信コールをピックアップしますが、グループ C で、グループ A での着信コールよりも前に着信したコールがある可能性があります。



- (注) 複数の着信コールが当該グループ内で発生する場合に最初にピックアップされるコールは、最も長くアラート状態になっているコール（呼び出し時間が最も長いコール）です。他のグループ コールピックアップ機能では、複数の関連ピックアップグループが設定されている場合には呼び出し時間よりも優先度が優先されます。

ダイレクトコールピックアップの概要

ダイレクトコールピックアップ機能では、ユーザが [G ピック (GPickUp)] または [グループピックアップ (Group Pickup)] ソフトキーを押し、呼び出し音が鳴っているデバイスの電話番号を入力することで、その DN で呼び出し中のコールに直接応答できます。自動ダイレクトコールピックアップ機能が有効になっていない場合、ユーザは [G ピック (GPickUp)] ソフトキーを押し、呼び出し音が鳴っている電話の DN をダイヤルし、コールに応答する必要があります。これによりユーザの電話で呼び出し音が鳴り、接続が確立されます。Unified Communications Manager は、関連するグループメカニズムを使用して、ダイレクトコールピックアップを使用して着信コールに応答するユーザの権限を制御します。ユーザの関連グループによって、そのユーザが属するピックアップグループに関連する1つ以上のコールピックアップグループが指定されます。

DN からの呼び出しコールをユーザが直接ピックアップするには、ユーザの関連グループに、その DN が属するピックアップグループが含まれている必要があります。2人のユーザがそれぞれ異なる2つのコールピックアップグループに属しており、一方のユーザの関連グループにもう一方のユーザのコールピックアップグループが含まれていない場合、そのユーザは、もう一方のユーザからのコールをピックアップするためにダイレクトコールピックアップを起動できません。

ユーザがダイレクトコールピックアップ機能を起動し、DN を入力して着信コールをピックアップすると、そのユーザは指定した電話に着信するコールに接続されます。そのコールが、DN が属するコールピックアップグループ内で最も長く鳴っているコールかどうかは問われません。特定の DN で複数のコールが呼び出し音を鳴らし、ユーザがダイレクトコールピックアップを起動して DN からのコールをピックアップすると、ユーザは指定された DN で最も長く鳴っていた着信コールに接続されます。

BLF コールピックアップの概要

BLF コールピックアップ機能によって、Unified Communications Manager は、コールが BLF DN からの応答を待っているとき、電話をユーザに通知できます。BLF コールピックアップイニシエータ（コールに応答する電話）は、次に利用可能な回線または指定された回線として選択されます。指定された回線を使用するには、BLF SD ボタンが押されるまで、回線をオフフックのままにする必要があります。ハントリストメンバー DN を BLF DN として設定し、ハントリストメンバーへの着信コールに BLF コールピックアップイニシエータが応答するように設定できます。ハントリストメンバーへの着信コールは、ハントリストからの着信の場合と、ダイレクトコールの場合があります。それぞれのケースの動作は、ハントリストメンバー DN、BLF DN、ハントパイロット番号に対してコールピックアップを設定する方法によって異なります。[有効な自動コールピックアップ (Auto Call Pickup Enabled)] サービスパラメータが無効に設定されているときにコールピックアップが発生した場合、電話をオフフックのままにするか、ユーザが応答キーを押してコールに応答する必要があります。

電話の BLF SD ボタンは、次のいずれかの状態になっています。

- アイドル：BLF DN へのコールがないことを示します。
- 話中：BLF DN への少なくとも 1 つのアクティブなコールがありますが、アラートは存在しないことを示します。
- アラート：BLF DN への少なくとも 1 つの着信コールがあることを点滅によって示します。

BLF DN への着信コールがある場合、BLF コールピックアップイニシエータである電話の BLF SD ボタンが点滅して、BLF DN への着信コールがあることを示します。[自動コールピックアップ (Auto Call Pickup)] が設定されている場合、ユーザがコールピックアップイニシエータである電話の BLF SD ボタンを押して着信コールに応答します。自動コールピックアップが設定されていない場合、電話をオフフックのままにするか、ユーザが応答キーを押してコールに応答する必要があります。

コールピックアップの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	コールピックアップグループの設定 (6 ページ)	使用するコールピックアップ機能それぞれに、コールピックアップグループを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • コールピックアップ • グループコールピックアップ • 他のコールピックアップ • ダイレクトコールピックアップ

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • BLF コールピックアップ <p>一意の名前と電話番号を持つグループを定義する必要があります。</p>
ステップ2	電話番号へのコールピックアップグループの割り当て (6 ページ)	<p>コールピックアップを有効にする電話に関連付けられた電話番号に、作成した各コールピックアップグループを割り当てます。この機能を使用するには、電話番号をコールピックアップグループに割り当てる必要があります。</p> <p>作成したコールピックアップグループごとにこの手順を繰り返します。</p>
ステップ3	別のコールピックアップグループを作成し、ステップ1 (3 ページ) で作成した BLF コールピックアップグループに関連付けます。1つのコールピックアップグループを複数の BLF DN コールピックアップグループに関連付けることができます。	<p>BLF コールピックアップを設定している場合、この手順を実行します。</p> <p>(注) 別のコールピックアップグループを必ず作成する必要があるわけではありません。たとえば、イニシエータDNと接続先DNの両方が含まれる単独のコールピックアップグループを設定できます。このような場合、BLF コールピックアップグループにそれ自体を関連付けます。</p>
ステップ4	コールピックアップのパーティションの設定 (7 ページ)	<p>パーティションを設定して、到達可能性の特徴が類似した電話番号 (DN) の論理グループを作成します。コールピックアップグループへのアクセスを制限するためにパーティションを使用できます。コールピックアップグループ番号をパーティションに割り当てると、そのパーティションに含まれる番号にダイヤルできる電話機だけがコールピックアップグループを使用できます。</p> <p>ダイレクトコールピックアップでは、この手順を実行する必要があります。他の種類のコールピックアップではオプション。</p>
ステップ5	コーリングサーチスペースの設定 (8 ページ)	<p>パーティションを設定する場合、コーリングサーチスペースも設定する必要があります。コーリングサーチスペースを設定し、発信側デバイスがコールを終了しようとする際に検索できるパーティションを指定します。</p> <p>ダイレクトコールピックアップでは、この手順を実行する必要があります。他の種類のコールピックアップではオプション。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	ハントパイロットへのコールピックアップグループの割り当て (9 ページ)	(オプション)。回線グループメンバーにアラートを発信するコールを取ることができるように、ハントパイロット DN にコールピックアップグループを割り当てます。コールピックアップグループに割り当てられたハントリストは、コールピックアップ、グループコールピックアップ、BLF コールピックアップ、他のグループピックアップ、ダイレクトコールピックアップを使用できます。
ステップ 7	通知の設定： <ul style="list-style-type: none"> • コールピックアップ通知の設定 (9 ページ) • 電話番号のコールピックアップ通知の設定 (11 ページ) • BLF コールピックアップ通知の設定 (12 ページ) 	(オプション)。ピックアップグループ内の他のメンバーがコールを受信したときに通知を設定します。音声やビジュアル通知、あるいはその両方を設定できます。
ステップ 8	ダイレクトコールピックアップの設定： <ul style="list-style-type: none"> • 時間帯の設定 (14 ページ) • スケジュールの設定 (14 ページ) • パーティションとスケジュールの関連付け (15 ページ) 	ダイレクトコールピックアップを設定する前に、パーティションとコーリング検索スペースを設定する必要があります。ダイレクトコールピックアップでは、ダイレクトコールピックアップ機能を要求したユーザのコーリング検索スペースに、ユーザがコールをピックアップする DN のパーティションを含める必要があります。 期間およびタイムスケジュールは、関連付けられたグループ内のメンバーがコールに回答可能な時刻を指定します。
ステップ 9	自動コール応答の設定： <ul style="list-style-type: none"> • 自動コールピックアップの設定 (16 ページ) • BLF 自動ピックアップの設定 (16 ページ) 	(オプション)。自動コール応答を有効にして、自動コール応答のタイマーを設定します。
ステップ 10	電話ボタンテンプレートの設定： <ul style="list-style-type: none"> • コールピックアップの電話ボタンテンプレートの設定 (17 ページ) • 電話機とコールピックアップボタンテンプレートの関連付け (18 ページ) • BLF コールピックアップイニシエータの BLF 短縮ダイヤル番号の設定 (18 ページ) 	使用するコールピックアップ機能向けに電話ボタンテンプレートを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 短縮ダイヤル BLF • コールピックアップ • グループコールピックアップ • 他のグループのピックアップ ダイレクトコールピックアップでは、グループコールピックアップボタンを使用します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	<p>コールピックアップのソフトキーの設定 (19 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールピックアップのソフトキーテンプレートの設定 (19 ページ) • 共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け (21 ページ) • 電話機とソフトキーテンプレートの関連付け (22 ページ) 	<p>使用するコールピックアップ機能向けにソフトキーを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールピックアップ (Pickup) • グループコールピックアップ (GPickup) • 他のグループピックアップ (OPickup) <p>ダイレクトコールピックアップでは、グループコールピックアップソフトキーを使用します。</p>

コールピックアップグループの設定

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] の順に選択します。[コールピックアップグループの検索と一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウ内の各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

電話番号へのコールピックアップグループの割り当て

ここでは、電話番号にコールピックアップグループを割り当てる方法について説明します。コールピックアップグループに割り当てられた電話番号だけが、コールピックアップ、グループコールピックアップ、BLF コールピックアップ、他のグループピックアップ、ダイレクトコールピックアップを使用できます。パーティションがコールピックアップ番号と一緒に使用される場合、コールピックアップグループに割り当てられた電話番号に、適切なパーティションを含むコーリング検索スペースがあることを確認します。

始める前に

[コールピックアップグループの設定 \(6 ページ\)](#)

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [電話またはコールルーティング (Phone or Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。

ステップ 2 コールピックアップグループに割り当てる電話機または電話番号の検索に適した検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。

検索基準に一致する電話機または電話番号のリストが表示されます。

- ステップ3 コールピックアップグループを割り当てる電話機または電話番号を選択します。
- ステップ4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [関連付け情報 (Association Information)] リストから、コールピックアップグループを割り当てる電話番号を選択します。
- ステップ5 [コール転送およびコールピックアップ設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)] エリアに表示される [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] ドロップダウンリストから、目的のコールピックアップグループを選択します。
- ステップ6 データベースに変更を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

次の作業を行います。

- [コールピックアップのパーティションの設定 \(7 ページ\)](#)
- [コーリングサーチスペースの設定 \(8 ページ\)](#)

コールピックアップのパーティションの設定

パーティションをコールピックアップグループ番号に割り当てることにより、コールピックアップグループへのアクセスを制限できます。この設定を使用する場合は、コールピックアップグループ番号が割り当てられたパーティションを含むコーリングサーチスペースを持つ電話機だけが、そのコールピックアップグループに参加できます。パーティションとグループ番号の組み合わせがシステム全体で一意であることを確認してください。複数のパーティションを作成できます。

コールピックアップグループ番号をパーティションに割り当てると、そのパーティションに含まれる番号にダイヤルできる電話機だけがコールピックアップグループを使用できます。パーティションがマルチテナント構成内のテナントを表す場合は、必ず、テナントごとにピックアップグループを適切なパーティションに割り当ててください。

始める前に

[電話番号へのコールピックアップグループの割り当て \(6 ページ\)](#)

- ステップ1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 **コールルーティング > コントロールのクラス > パーティション**。
- ステップ2 [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。
パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ3 パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。

説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。

説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。

ステップ 4 複数のパーティションを作成するには、各パーティションエントリごとに 1 行を使います。

ステップ 5 [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。

スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。

ステップ 6 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。

- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
- [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択されたタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

コーリングサーチスペースの設定

コーリングサーチスペースは、通常はデバイスに割り当てられるルートパーティションの番号付きリストです。コーリングサーチスペースでは、発信側デバイスが電話を終了しようとする際に検索できるパーティションが決定されます。

始める前に

[コールピックアップのパーティションの設定 \(7 ページ\)](#)

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 **コールルーティング > コントロールのクラス > コーリングサーチスペース。**

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。

各コーリングサーチスペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。

ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、説明を入力します。

説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。

ステップ5 [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。

- パーティションが1つの場合は、そのパーティションを選択します。
- パーティションが複数ある場合は、**コントロール (Ctrl)** キーを押したまま、適切なパーティションを選択します。

ステップ6 ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。

ステップ7 (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。

ステップ8 [保存 (Save)] をクリックします。

ハントパイロットへのコールピックアップグループの割り当て

コールピックアップグループに割り当てられたハントリストだけが、コールピックアップ、グループコールピックアップ、BLFコールピックアップ、他のグループピックアップ、ダイレクトコールピックアップを使用できます。ハントパイロットにコールピックアップグループを割り当てるには、次の手順を実行します。

始める前に

[コーリングサーチスペースの設定 \(8 ページ\)](#)

ステップ1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**ルート/ハント (Route/Hunt)**] > [**ハントパイロット (Hunt Pilot)**] の順に選択します。

ステップ2 コールピックアップグループに割り当てるハントパイロットの検索に適した検索条件を入力し、[**検索 (Find)**] をクリックします。検索条件に一致するハントパイロットのリストが表示されます。

ステップ3 コールピックアップグループを割り当てるハントパイロットを選択します。

ステップ4 [**ハント転送設定 (Hunt Forward Settings)**] エリアに表示される [**コールピックアップグループ (Call Pickup Group)**] ドロップダウンリストから、目的のコールピックアップグループを選択します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

コールピックアップ通知の設定

コールピックアップ通知は、システムレベル、コールピックアップグループレベル、個々の電話レベルで設定できます。

始める前に

[ハントパイロットへのコールピックアップグループの割り当て \(9 ページ\)](#)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	コールピックアップグループのコールピックアップ通知の設定 (10 ページ)	音声やビジュアルのアラートがピックアップグループに送信される前に、元の着信側がコールをピックアップできるようにします。
ステップ 2	電話番号のコールピックアップ通知の設定 (11 ページ)	電話がアイドルであるか、またはアクティブコールがあるときに提供される音声アラートのタイプを設定します。
ステップ 3	BLF コールピックアップ通知の設定 (12 ページ)	

コールピックアップグループのコールピックアップ通知の設定

始める前に

[ハントパイロットへのコールピックアップグループの割り当て \(9 ページ\)](#)

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**コールピックアップグループ (Call Pickup Group)**] の順に選択します。
[**コールピックアップグループ (Call Pickup Group)**] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [**コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)**] ウィンドウで、[**コールピックアップグループの通知設定 (Call Pickup Group Notification Settings)**] セクションのフィールドを設定します。
フィールドとその設定オプションの詳細については、[コールピックアップのコールピックアップ通知のフィールド \(11 ページ\)](#) を参照してください。

(注) コールピックアップの設定に影響を及ぼす機能の連携動作と制限については、[コールピックアップの連携と制限](#)を参照してください。

コールピックアップのコールピックアップ通知のフィールド

フィールド	説明
コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy)	ドロップダウンリストから通知ポリシーを選択します。選択可能なオプションは、[アラートなし (No Alert)]、[オーディオアラート (Audio Alert)]、[ビジュアルアラート (Visual Alert)]、および [オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert)] です。
コールピックアップグループ通知タイマー (Call Pickup Group Notification Timer)	コールが最初に元の着信側に着信したときから、コールピックアップグループの残りの番号に通知が送信されるまでの時間差の秒数 (1 ~ 300 の範囲の整数) を入力します。
[発呼側情報(Calling Party Information)]	<p>コールピックアップグループへのビジュアル通知メッセージに発呼側のIDを加えるには、このチェックボックスをオンにします。[コールピックアップグループ通知ポリシー(Call Pickup Group Notification Policy)] が [ビジュアルアラート(Visual Alert)] または [オーディオおよびビジュアルアラート(Audio and Visual Alert)] に設定されている場合にだけ、この設定を使用できます。</p> <p>(注) 通知はデバイスのプライマリ回線だけに送信されます。</p>
[着信側情報 (Called Party Information)]	<p>コールピックアップグループへのビジュアル通知メッセージに元の着信側のIDを加えるには、このチェックボックスをオンにします。[コールピックアップグループ通知ポリシー(Call Pickup Group Notification Policy)] が [ビジュアルアラート(Visual Alert)] または [オーディオおよびビジュアルアラート(Audio and Visual Alert)] に設定されている場合に、この設定を使用できます。</p>

電話番号のコールピックアップ通知の設定

電話機がアイドル状態または使用中に提供される音声通知の種類を設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

[コールピックアップグループのコールピックアップ通知の設定 \(10 ページ\)](#)

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[**コール ルーティング (Call Routing)**] > [電話番号 (**Directory Number**)] を選択します。
[電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** コールピックアップ通知を設定する電話番号をクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [関連付けられたデバイス (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[ラインアピアランスの編集 (Edit Line Appearance)] ボタンをクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが更新され、選択したデバイスの DN に対するラインアピアランスが表示されます。
- ステップ 5** [コールピックアップグループのオーディオアラート設定 (電話アイドル) (Call Pickup Group Audio Alert Setting(Phone Idle))] ドロップダウンリストで、次のいずれかを選択してください。
- [システムデフォルトの使用 (Use System Default)]
 - [無効 (Disable)]
 - [一度鳴らす (Ring Once)]
- ステップ 6** [コールピックアップグループのオーディオアラート設定 (電話アクティブ) (Call Pickup Group Audio Alert Setting(Phone Active))] ドロップダウンリストで、次のいずれかを選択してください。
- [システムデフォルトの使用 (Use System Default)]
 - [無効 (Disable)]
 - [ビープ音のみ (Beep Only)]
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

BLF コールピックアップ通知の設定

始める前に

[電話番号のコールピックアップ通知の設定 \(11 ページ\)](#)

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[**システム (System)**] > [サービスパラメータ (**Service Parameters**)]。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストで、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。

ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco CallManager] を選択します。

ステップ4 [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、クラスタ全体に対するパラメータ ([デバイス (Device)]-[電話 (Phone)]) セクションのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、[BLF コールピックアップ通知のサービスパラメータ フィールド \(13 ページ\)](#) を参照してください。

BLF コールピックアップ通知のサービスパラメータ フィールド

フィールド	説明
[アイドルステーションのコールピックアップグループ オーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station)]	このパラメータは、電話がアイドル状態（使用されていない状態）であり、そのコールピックアップグループでの着信コールについてアラートが必要な場合に提供されるオーディオ通知の種類を決定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disable)] • [一度鳴らす (Ring Once)]
[ビジーステーションのコールピックアップグループ オーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)]	このパラメータは、電話がビジー状態（使用されている状態）であり、そのコールピックアップグループでの着信コールについてアラートが必要な場合に提供されるオーディオ通知の種類を決定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disable)] • [ビープ音のみ (Beep Only)]
[アイドルステーションの BLF ピックアップグループ オーディオアラートの設定 (BLF Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station)]	このパラメータは、電話がアイドル状態であり、BLF ピックアップボタンでの着信コールについてアラートが必要な場合に提供されるオーディオ通知の種類を決定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [呼出音なし (No Ring)] • [一度鳴らす (Ring Once)]

フィールド	説明
[ビジー ステーションの BLF ピックアップ グループ オーディオアラートの設定 (BLF Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)]	このパラメータは、電話がビジー状態であり、BLF ピックアップ ボタンでの着信コールについてアラートが必要な場合に提供されるオーディオ通知の種類を決定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [呼出音なし (No Ring)] • [ビープ音のみ (Beep Only)]

ダイレクトコールピックアップの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	時間帯の設定 (14 ページ)	自分のグループに関連付けられたグループのメンバーの時間帯を設定します。
ステップ 2	スケジュールの設定 (14 ページ)	自分のグループに関連付けられたグループのメンバーのスケジュールを設定します。
ステップ 3	パーティションとスケジュールの関連付け (15 ページ)	特定の時間内にコールを完了しようとする場合、パーティションとスケジュールを関連付けてコーリングデバイスの検索が行われる場所を決定します。

時間帯の設定

時間帯を定義するには、この手順を使用します。開始時刻および終了時刻を定義し、さらに年次カレンダーで指定日または曜日として繰り返し間隔を指定します。

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コール ルーティング (Call Routing)]>[コントロールのクラス (Class of Control)]>[スケジュールの設定 (Time Schedule)]を選択します。

ステップ 2 [時間帯の設定 (Time Period Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

スケジュールの設定

始める前に

[時間帯の設定 \(14 ページ\)](#)

- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [タイムスケジュール (Time Schedule)]。
- ステップ 2** [スケジュールの設定 (Time Schedule)] ウィンドウのフィールドを設定します。 フィールドと設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

パーティションとスケジュールの関連付け

特定の時間中にコールを完了しようとする場合、パーティションとスケジュールを関連付けてコーリング デバイスの検索が行われる場所を決定します。

始める前に

[スケジュールの設定 \(14 ページ\)](#)

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コール ルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
- ステップ 2** [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。
スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

自動コール応答の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	自動コールピックアップの設定 (16 ページ)	コールピックアップ、グループピックアップ、その他のグループピックアップ、ダイレクトコールピックアップ、および BLF コールピックアップを自動化できます。自動コール応答が有効になっていない場合は、追加のソフトキーまたはダイヤルグループ番号を押して接続を完了する必要があります。
ステップ 2	BLF 自動ピックアップの設定 (16 ページ)	

自動コールピックアップの設定

自動コールピックアップは、ユーザを着信コールに接続します。ユーザが電話機でソフトキーを押すと、Unified Communications Managerはグループ内の着信コールを検索し、コール接続を実行します。コールピックアップ、グループピックアップ、その他のグループピックアップ、ダイレクトコールピックアップ、およびBLFコールピックアップを自動化できます。自動コール応答が有効になっていない場合は、追加のソフトキーまたはダイヤルグループ番号を押して接続を完了する必要があります。

始める前に

[パーティションとスケジュールの関連付け \(15 ページ\)](#)

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)]。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストで、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。
 - ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco CallManager] を選択します。
 - ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (機能 - コールピックアップ) (Clusterwide Parameters (Feature - Call Pickup))] セクションで、[自動コールピックアップ有効化 (Auto Call Pickup Enabled)] ドロップダウン リストから [はい (True)] または [いいえ (False)] を選択して、コールピックアップグループの自動コール応答を有効または無効にします。
 - ステップ 5 [自動コールコールピックアップ有効化 (Auto Call Pickup Enabled)] サービスパラメータが [いいえ (False)] の場合は、[コールピックアップ無応答タイマー (Call Pickup No Answer Timer)] フィールドに 12 ~ 300 の値を入力します。このパラメータによって、コールピックアップ、グループコールピックアップ、またはその他のグループコールピックアップを使用してコールがピックアップされたものの応答されなかった場合に、コールが復元されるまでの時間が制御されます。
 - ステップ 6 [ピックアップロケーティングタイマー (Pickup Locating Timer)] フィールドに 1 ~ 5 の値を入力します。このサービスパラメータは、Cisco Unified Communications Manager がクラスタ内の全ノードからのすべてのアラートコールを特定までの最大時間を秒単位で指定します。その後、この情報は、キュー内で最も長く待機していたコールを、PickUp、GPickUp、または OPickUp ソフトキーを押した次のユーザに確実にまわすために使用されます。
 - ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
-

BLF 自動ピックアップの設定

始める前に

[自動コールピックアップの設定 \(16 ページ\)](#)

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)]。

ステップ2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストで、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。

ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。

ステップ4 次のクラスタ全体のサービスパラメータの値を設定します。

- アイドル状態のステーションの BLF ピックアップ オーディオアラート設定：コールピックアップグループの自動コール応答を有効または無効にするには、ドロップダウンリストから [True] または [False] を選択します。このサービスパラメータのデフォルト値は [いいえ (FALSE)] です。
- 使用中のステーションの BLF ピックアップ オーディオアラートの設定：自動コールピックアップ有効化サービスパラメータを [False] にする場合、12～300 の値を入力します (包括的)。このパラメータによって、コールピックアップ、グループコールピックアップ、またはその他のグループコールピックアップを使用してコールがピックアップされたものの応答されなかった場合に、コールが復元されるまでの時間が制御されます。

コールピックアップの電話ボタンの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	コールピックアップの電話ボタンテンプレートの設定 (17 ページ)	電話ボタンテンプレートにコールピックアップ機能を追加します。
ステップ2	電話機とコールピックアップボタンテンプレートに関連付け (18 ページ)	
ステップ3	BLF コールピックアップイニシエータの BLF 短縮ダイヤル番号の設定 (18 ページ)	

コールピックアップの電話ボタンテンプレートの設定

電話ボタンテンプレートにコールピックアップ機能を追加するには、次の手順に従います。

始める前に

[自動コール応答の設定 \(15 ページ\)](#)

ステップ1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone button template)] の順に選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックして、サポートされる電話テンプレートのリストを表示します。

- ステップ 3** 新しい電話ボタン テンプレートを作成する場合は、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- 電話機モデルのデフォルトのテンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - [電話ボタン テンプレート 情報 (Phone Button Templates Information)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
 - [保存] をクリックします。
- ステップ 4** 既存のテンプレートに電話ボタンを追加するには、次の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - 既存のテンプレートを選択します。
- ステップ 5** [回線 (Line)] ドロップダウン リストから、テンプレートに追加する機能を選択します。
- ステップ 6** [保存] をクリックします。
- ステップ 7** 次のいずれかの操作を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
 - 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。

電話機とコール ピックアップ ボタン テンプレートの関連付け

始める前に

[コール ピックアップの電話ボタン テンプレートの設定 \(17 ページ\)](#)

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、設定済みの電話のリストを表示します。
- ステップ 3** 電話ボタン テンプレートを追加する電話を選択します。
- ステップ 4** [電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストで、新しい機能ボタンが含まれる電話ボタン テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
電話の設定を更新するには [リセット (Reset)] を押すというメッセージ付きのダイアログボックスが表示されます。

BLF コール ピックアップ イニシエータの BLF 短縮ダイヤル番号の設定

始める前に

[電話機とコール ピックアップ ボタン テンプレートの関連付け \(18 ページ\)](#)

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2 BLF コールピックアップ イニシエータとして使用したい電話を選択します。
- ステップ 3 [関連付け (Association)] ペインで、[BLF SD 新規追加 (Add a new BLF SD)] リンクを選択します。[話中ランプフィールド短縮ダイヤル設定 (Busy Lamp Field Speed Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 BLF DN ボタンでモニタする [電話番号 (Directory Number)] (BLF DN) を選択します。
- ステップ 5 BLF コールピックアップと BLF 短縮ダイヤルに BLF SD ボタンを使用する場合は、[コールピックアップ (Call Pickup)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、BLF SD ボタンは、BLF 短縮ダイヤルにのみ使用されます。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

コールピックアップのソフトキーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	コールピックアップのソフトキーテンプレートの設定 (19 ページ)	ソフトキーテンプレートに、Pickup、GPickup、および OPickup ソフトキーを追加します。
ステップ 2	共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け (21 ページ) を行うには、次のサブタスクを完了します。 <ul style="list-style-type: none"> 共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加 (21 ページ) 電話機と共通デバイス設定の関連付け (22 ページ) 	オプション。ソフトキーテンプレートを電話で使えるようにするには、この手順か次の手順のいずれかを実行する必要があります。システムが [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従います。これは、電話機でソフトキーテンプレートを 사용할できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。
ステップ 3	電話機とソフトキーテンプレートの関連付け (22 ページ)	オプション。次の手順は、ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定を関連付けるための代替手段として、または共通デバイス設定と共に使用します。ソフトキーテンプレートを適用して、共通デバイス設定での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーを上書きする必要がある場合は、次の手順を共通デバイス設定と共に使用します。

コールピックアップのソフトキーテンプレートの設定

次の手順を使用して、以下のコールピックアップソフトキーを使用できるようにします。

ソフトキー	説明	コール状態
コールピックアップ ([Pickup])	グループ内の別の内線へのコールに応答できます。	オンフック (On Hook) オフフック (Off Hook)
グループコールピックアップ ([GPickup])	グループ外の内線へのコールに応答できます。	オンフック (On Hook) オフフック (Off Hook)
他のグループピックアップ ([OPickup])	グループに関連付けられている他のグループで呼び出し中のコールに応答できます。	オンフック (On Hook) オフフック (Off Hook)

始める前に

[コールピックアップの電話ボタンの設定 \(17 ページ\)](#)

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。
- ステップ 2** 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [新規追加] をクリックします。
 - デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - [ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
 - [保存] をクリックします。
- ステップ 3** 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、次の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - 必要な既存のテンプレートを選択します。
- ステップ 4** [デフォルト ソフトキー テンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。
- (注) あるソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。
- ステップ 5** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウンリストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。
- ステップ 7** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 8 追加のコール状態でのソフトキーを表示するには、前述のステップを繰り返します。

ステップ 9 **[保存]** をクリックします。

ステップ 10 次のいずれかの操作を実行します。

- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、**[設定の適用 (Apply Config)]** をクリックしてデバイスを再起動します。
- 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加」と「電話機のセクションとソフトキーテンプレートの関連付け」を参照してください。

次のタスク

次のいずれかの操作を実行します。

- [共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け \(21 ページ\)](#)
- [電話機とソフトキーテンプレートの関連付け \(22 ページ\)](#)

共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け

(オプション) ソフトキーテンプレートを電話機に関連付ける方法は 2 つあります。

- ソフトキーテンプレートを **[電話の設定 (Phone Configuration)]** に追加します。
- ソフトキーテンプレートを **共通デバイス設定** に追加します。

ここに示す手順では、ソフトキーテンプレートを **共通デバイス設定** に関連付ける方法について説明します。システムが **共通デバイス設定** を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。

別の方法を使用するには、「[電話機とソフトキーテンプレートの関連付け \(22 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 1 [共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加 \(21 ページ\)](#)

ステップ 2 [電話機と共通デバイス設定の関連付け \(22 ページ\)](#)

共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。

ステップ 2 新しい共通デバイス設定を作成し、それにソフトキーテンプレートを関連付けるには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。

- a) [新規追加] をクリックします。
- b) [名前 (Name)] フィールドに、共通デバイス設定の名前を入力します。
- c) [保存] をクリックします。

ステップ 3 既存の共通デバイス設定にソフトキー テンプレートを追加するには、次の手順を実行します。

- a) [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
- b) 既存の共通デバイス設定をクリックします。

ステップ 4 [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、使用可能にするソフトキーが含まれているソフトキー テンプレートを選択します。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ステップ 6 次のいずれかの操作を実行します。

- すでにデバイスに関連付けられている共通デバイス設定を変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
- 新しい共通デバイス設定を作成してその設定をデバイスに関連付けた後に、デバイスを再起動します。

電話機と共通デバイス設定の関連付け

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、ソフトキーテンプレートを追加する電話デバイスを選択します。

ステップ 3 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウンリストから、新しいソフトキー テンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ステップ 5 [リセット (Reset)] をクリックして、電話機の設定を更新します。

電話機とソフトキー テンプレートの関連付け

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、ソフトキー テンプレートを追加する電話を選択します。

ステップ 3 [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストから、新しいソフトキーが含まれているテンプレートを選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

コールピックアップの連携動作

機能	データのやり取り
ルートプランレポート	ルートプランレポートには、Unified Communications Manager で設定されているパターンと DN が表示されます。DN をコールピックアップグループに割り当てる前に、ルートプランレポートを使用して、重複しているパターンと DN を探します。
コーリング検索スペースとパーティション	パーティションをコールピックアップグループ番号に割り当てると、デバイスコーリング検索スペースに基づいて、ユーザへのコールピックアップアクセスが制限されます。
時刻 (TOD)	関連付けられたグループのメンバーの [時刻 (Time of Day)] (TOD) パラメータにより、メンバーは自分のグループと同じ時間帯にコールを受け付けることができます。TOD はタイムスタンプをコーリング検索スペースとパーティションに関連付けます。
コールアカウンティング	<p>コールピックアップが自動コールピックアップを通じて発生すると、システムにより2つのコール詳細レコード (CDR) が生成されます。CDR の1つはクリアされる元のコールに適用され、もう1つの CDR は接続される要求コールに適用されます。</p> <p>コールピックアップが非自動コールピックアップで発生すると、システムにより1つのコール詳細レコードが生成され、接続される要求コールに適用されます。</p> <p>CDR 検索は、特定の時間範囲とその他の検索条件に一致するすべての CDR を返します。特定の CDR に関連付けられるタイプのコールを検索することもできます。検索結果にはコールがピックアップコールかどうかを示すコールタイプフィールドが表示されます。</p>
通話転送	サービスパラメータ [自動コールピックアップ有効化 (Auto Call Pickup Enabled)] が false に設定された状態でコールピックアップが発生した場合、いずれかのピックアップソフトキーが押されると、電話機に設定されたコール転送は無視されます。コールピックアップ依頼者がコールに応答しない場合、ピックアップ無応答タイマーが切れた後、元のコールが復元されます。

コールピックアップの制限

制約事項	説明
異なるコールピックアップグループへの別個の電話回線	異なるコールピックアップグループに電話の別個の回線を割り当てることもできますが、ユーザには複雑であるため、シスコはこの設定をお勧めしません。
コールピックアップグループ番号	<ul style="list-style-type: none"> • コールピックアップグループ番号は、回線またはDNに割り当てられると削除できません。どの行がどのコールピックアップグループ番号を使用しているかを決定するには、[コールピックアップ構成 (Call Pickup Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] を使用します。コールピックアップグループ番号を削除するには、各回線またはDNに新しいコールピックアップグループ番号を再割り当てします。 • コールピックアップグループ番号を更新すると、Cisco Unified Communications Managerはそのコールピックアップグループに割り当てられているすべての電話番号を自動的に更新します。
SIP 電話機	<ul style="list-style-type: none"> • SIPを実行するいくつかのCisco Unified IP電話では、コールピックアップの通知をサポートしていません。 • コールピックアップの通知がサポートされるのは、SIPを実行するライセンスが付与された、サードパーティの電話のみです。
ダイレクトコールピックアップ	<ul style="list-style-type: none"> • ハントパイロット番号の呼び出しにより行われたコールによりハントリストに属するデバイスが鳴っている場合、ユーザはダイレクトコールピックアップ機能を使用してそのようなコールに応答することはできません。 • 回線グループに属するDNへのコールは、ダイレクトコールピックアップ機能を使用してピックアップできません。
BLFピックアップ	SIPを実行するいくつかのCisco Unified IP電話では、コールピックアップの通知をサポートしていません。
着信発呼者の国際番号プレフィックス - 電話	プレフィックスを「[着信発呼者の国際番号プレフィックス-電話 (Incoming Calling Party International Number Prefix - Phone)]」サービスパラメータに設定していて、国際コールがコールピックアップグループ内のあるメンバーに発信される場合に、コールピックアップグループ内の別のメンバーがそのコールに応答すると、プレフィックスは発信側のフィールドに呼び出されません。